

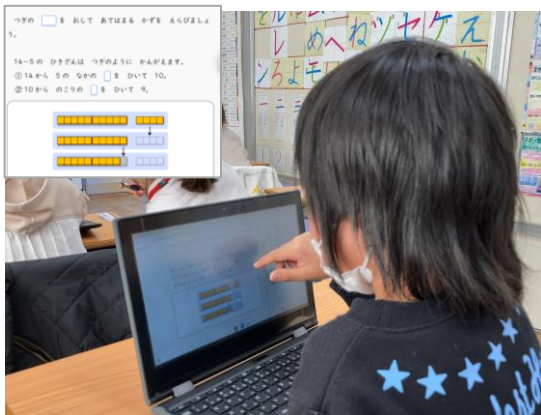


# 山梨県甲府市立 <sup>いせ</sup>伊勢小学校

## eライブラリでICT活用促進を ~だれでもICTを活用できる仕組みづくり~

伊勢小学校では、校内研究や端末持ち帰りの実施によってICTの活用促進に取り組んでいます。今回は、低学年の授業でeライブラリを活用している様子をご紹介します。

### 1 個人のペースでの演習に取り組む



#### 1年 算数 単元：12-3のけいさん

繰り下がりのあるひき算を、ブロックを使いながら考え、グループや全体に共有した後に、まとめの時間でeライブラリを利用しました。塩入先生が「eライブラリの時間です」と声をかけると児童から大きな歓声が上がります。

計算練習では、**児童が難易度を選択できるように設定して課題を出題**しています。同じ難易度を繰り返し取り組んでいる児童もいれば、難しい難易度に挑戦している児童もいます。**児童は各自のペースで学習に取り組んでいました。**

### 2 朝学習での課題を授業につなげる



#### 3年 算数 単元：小数の計算

朝学習では、前時の復習や本時で扱う内容に関連する2年生の教材を出題し、クラス全体の理解状況を確認した上で、本時の授業に入ります。

授業で、計算方法が思いつかない児童には「ヒントは今日のeライブラリの課題だよ」と高橋先生は声をかけていました。

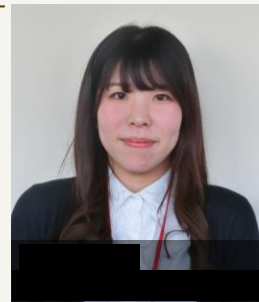
また、授業のまとめには**フラッシュカードの教材**を利用しました。暗算が好きな児童が多く、声をそろえて元気に答えていました。

### インタビュー 児童に「説明する力」をつけさせる

計算は、問題数をこなすと答えを出すことはできるようになりますが、児童には考え方の説明ができるようになってほしいと思っています。

eライブラリには、計算問題だけではなく計算の考え方を穴埋めする問題が収録されているので、**説明する力を育成することにつながる**のではないかと感じています。

そのため、授業の中で説明を行ったり、教材を作成したりする際に、eライブラリの問題や教材を参考にしています。



# ■ 端末を持ち帰り、課題に取り組む

課題名	進捗率	正解率	時間 (分)
算数	2 / 2	100%	6
算数	2 / 2	100%	6
算数	2 / 2	90%	9
算数	2 / 2	70%	4
算数	2 / 2	90%	8
算数	2 / 2	80%	5
算数	2 / 2	100%	5
算数	2 / 2	60%	5
算数	2 / 2	100%	4
算数	2 / 2	70%	6

▲課題の取り組み状況を一瞥で確認

## POINT

## 学習状況のモニタリング活用

伊勢小学校では、毎週水曜日にChromebookの持ち帰りを実施しています。先生はその日に合わせてeライブラリで課題を出題しています。

先生は、**課題の取り組み状況を確認し、翌日気になる児童には声をかけているそうです。**

また、端末の持ち帰りを実施することで保護者は学校の様子を知ることができ、ICT活用への関心も得ることができたそうです。

## ポイント

- 家庭での課題を出題する際は、事前に先生が問題を確認し、**一人でも取り組めるような問題の難易度を設定している。**
- 家庭での取り組み状況を確認し、児童への声掛けに活用。

## 伊勢小学校でのICT活用の取り組み

伊勢小学校では、児童会を中心としてさまざまなコンクールを開催し、先生も児童もICTを使えるように取り組んでいます。児童は端末を使うだけでウキウキ、ワクワクします。コンクールがあることで「もっと頑張ろう」という気持ちにつながっています。



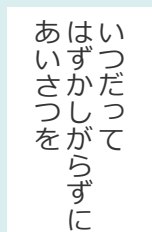
▲ タイピングコンクール



▲ 写真コンクール



▲ お絵描きコンクール



▲ 標語コンクール

## インタビュー 児童の主体的な学習をサポート

現在は、eライブラリを朝学習や授業、家庭学習での課題として児童に取り組みさせています。

eライブラリには、**取組回数に応じて成長する植物やタイルマップ学習など、児童の意欲向上につながる機能**もあります。そのため、今後の展望として児童がより主体的に学習に取り組む機会を設けたり、タイルマップの色の濃さから次にどの学習に取り組むか児童が考えられるように声掛けを行っていきたいと考えています。



## インタビュー 学習習慣の確立、学習意欲の向上につながる

eライブラリを活用することで、児童の学習習慣が確立され、ICT機器の活用能力も向上しました。

授業では、教科書の問題を解き終わった児童からeライブラリに取り組ませる先生が多いです。**早く終わった児童も手持ち無沙汰にならず、自分のペースでレベルを選んで問題に取り組むことができます。**

また、問題を解いてすぐに答え合わせができ、間違った時もヒントや解説教材を確認して解き直しまで行うことができます。そのため、丸付けの時間が削減され、教員の働き方改革にもつながっています。



研究主任